我が最年少のメル友は、何とも頼もしい！！

ある小学校の６年生の総合学習「ぼく・私のドリームマップ～地域で活動する人から学ぼう～」で話す機会を得た。
目を輝かして聴いてくれている生徒さんもいたし、先生方からも「生徒に解り易い、いい話でした」と云っていただけた。

実は、大学生、親御さん、また、いわゆるプロが対象であれば何の躊躇もなく引き受けるのだが、まさか小学生対象にいつもの阿部節調で話す訳にもいかず、講話依頼を受けるかどうか、正直迷った。
また、中学生（「雑学ＢＮ」の講義等関係（Ｉ）、2001.06.29.「福祉について」：参照）や高校生（「雑学ＢＮ」の講義等関係（Ｉ）、2000.05.09.「福祉とアイデンティティー」：参照）を対象に話したことはあるが、小学校では授業時間は短いだけに、我が得意技（？）の横道に逸脱して話す時間もないだろうし…。

そこでまず、６年生担任の先生方と打ち合わせ会をお願いし、話す内容の概要の了解は得たが、実際に聴く小学生はどうかなとまだ少し自信がなかった。
そこで更に、２年前からメール交流し、今は同じ小学校６年生になっている遠方の我が最年少のメル友（「雑学ＢＮ」の随想等関係（Ｖ）、2006.07.22.「最年少のメル友の　素敵な詩をみてあげてください」：参照）に、話すメモ書き（「雑学ＢＮ」の講義等関係（Ⅳ）、2008.02.26.「将来の夢（仕事）に向かって～福祉職の立場から～」：参照）を添付送信して感想を求めたところ、次のように返信（抜粋）をいただいていた。

【　６年生に、お話しするのですね。頑張ってください。
さて、私も読みました。すごくいいことを書いていると思います。６年生でもきっとＯＫだと思います。
私は役に立ったのでしょうか？　私でよければいつでも相談にのりますからネ～★　】

メモ書きを理解して貰えたお陰で小学６年生に話す勇気が湧き、当日は自信をもって話が出来た(^_^)/~。
年齢差は関係なく、やはり、人は互いに輔け合っているということかな。

それにしても、「私でよければいつでも相談にのりますからネ～★」とは、何とも頼もしい我が最年少のメル友である！

追伸：最年少のメル友からは、先のバレンタイン・デーには、わざわざ遠方から手作りのチョコ入りのバウンドケーキを送り届けてくださった、(^^)/~~~

阿部幸泰　　（2008 年 2 月 26 日　記）